

(申請書情報)

令和7年度採用分 特別研究員-PD 申請書

第 版

審査区分	①申請資格	PD	受付番号	
	②書面審査区分	選択した審査区分で審査されます。 https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html		
	③小区分名			
	④小区分コード	事前チェック・・・0版(1版以降も可) 最終提出・・・1版以降 最終提出の際は、必ず「確認完了・提出」ボタンをクリックした後に印刷・提出		
⑥研究課題名				

化学式、数式による表記は避け、漢字、カナ等で入力

〇〇大学

1. 申請者情報等

(申請機関コード:)

⑦氏名	(フリガナ) 登録名	旧姓や通称名等の使用や、()を使用した旧姓の併記なども可能 ID・パスワード発行依頼書は、必ず戸籍名で記載すること。
-----	---------------	--

⑧学歴 (学部・修士)	1. 年 月 大学 学部 学科卒
	2. 年 月 大学大学院修士課程入学 (研究科 専攻)

⑨博士学位 取得機関の 情報	1. 入学年月：(西暦) 年 月 編・転・再入学
	2. 編・転・再入学 博士学位取得機関に関する情報
	3. 大学院名： (大学院名は、【 出身大学院の研究指導者】で入力の所属機関と一致させてください。)
	4. 研究科名： 正式名称で記入してください。
	5. 専攻名：
	6. 課程種別：
	7. 修了・退学等：(西暦) 年 月
	8. 学位：(西暦) 年 月 日
	9. 休学期間合計： 年 ヶ月
	10. (西暦) 2025年4月1日時点における博士在学期間累計(休学期間を除く)： 年 ヶ月

⑩研究・職歴 等	1. 年 月 ~ 年 月
	2. 申請者の判断で、自身の研究・職歴等として申請書に記載したい内容を記入 (本会特別研究員以外の同様のフェローシップの採用歴や研究生歴、非研究職歴) 記入することがない場合は、初期設定のまま進んでください。
	日本学術振興会特別研究員採用歴 D C : (西暦) 年 月 ~ (西暦) 年 月 (受付番号:)
	P D : (西暦) 年 月 ~ (西暦) 年 月 (受付番号:) 日本学術振興会特別研究員として採用経験がある場合のみ記入
	R P D : (西暦) 年 月 ~ (西暦) 年 月 (受付番号:)

⑧学歴、⑨博士学位取得機関の情報、⑩研究・職歴等別紙：

「 学歴、 博士の状況、 研究・職歴等」の欄が不足した場合は、「有」を選択
詳細は、p.3をご覧ください。

⑪大学院在学当時の所属研究機関(出身研究機関)と受入研究機関との関係		
⑫博士の特記事項の有無	(博士の特記事項)	やむを得ない理由があり「同一大学」を選択した場合は、「特例措置希望理由書」を記入(募集要項3.申請資格 参照) 大学の統廃合による名義上の移動は同一大学とみなされます。
⑬出身大学院の研究指導者	(フリガナ)氏名	以下、に該当する場合のみ記入
	研究者	博士課程の修了・退学が見込みであり、なおかつ、「出身大学院の指導者」「現在の受入研究者」の場合 「出身大学院の研究指導者」・「採用後の受入研究者」が別人であるにもかかわらず同姓同名である場合 漢字が異なっても読み方が同じであれば、に該当
	所属機関	
	部 局	
⑭現在の受入研究者	(フリガナ)氏名	職
	研	【 博士学位取得機関の情報(所属機関)】における学籍上の研究指導者の情報 博士課程在学途中で指導教員の退官、異動等があった場合には、修了当時の内容 論文博士の場合は、論文審査の主査の情報
	所属機関	
	部 局	
⑮採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名	職
	研	○申請時点で博士課程に在学中の場合 【 出身大学院の研究指導者】と同じ情報を入力 異動等により一致しない場合は、(博士の特記事項)に具体的な理由を入力 ○現在の受入研究者に該当するものがない場合 (申請時において研究機関に所属していない場合等) 空欄
	所属機関	
	部 局	
	連絡先	
⑯申請者受入部局正式名		「採用後の受入研究者」=評価書作成者1です。 「採用後の受入研究者」の本務先所属機関が熊本大学でない場合は、申請機関が違います。 評価書作成後に修正する場合、再度、評価者が提出ボタンをクリックする必要がありますので、ご注意ください。
⑰評価書作成者1	(フリガナ)氏名	
	所属機関	
	部 局	
	連絡先	
⑱評価書作成者2	(フリガナ)氏名	職
	所属機関	
	部 局	
	連絡先	申請者の研究をよく理解している研究者の情報を入力 退官された方や現在所属のない研究者でも可。(申請者とつながりのあった当時の評価者の所属等を入力) 評価書作成後に修正する場合、再度、評価者が提出ボタンをクリックする必要がありますので、ご注意ください。

DC と PD で様式が違うので注意！

別紙

特別研究員-PD申請者⑧学歴、⑨博士学位取得機関の情報、⑩研究・職歴等別紙

申請書1ページ「⑧学歴、⑨博士学位取得機関の情報、⑩研究・職歴等」欄にて、必要事項を記載できなかった場合、その他特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合は、本ページ内に全て記載してください。記載する際には、既に入力済の部分も含め全て記載してください。

日本学術振興会 HP から **最新の**様式をダウンロードし、作成・アップロードしてください。

https://www.jspss.go.jp/j-pd/pd_sin.html

【アップロード方法】

- (1) 「⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等の別紙の有無」で「有」を選択。
- (2) 電子申請システムへアップロード。※ファイルをアップロードすると「ファイル登録済み」となります。

【留意事項】

- 入力欄が不足した項目については、入力済の部分も含めて当該別紙に時系列順で記入。
- 様式の改変はできません。（ヘッダー部分等を消したり、書き換えたりしない。）
- 別紙は1ページ目に記入し、2ページ目は白紙のまま、合計2ページをアップロード。
- 休学理由等を記載したい場合も、本別紙に記入して構いません。

【入力例】

研究・職歴等については、時系列順（西暦）で記載してください。

1. 2016年4月 ○○大学大学院博士課程入学（○○研究科○○専攻）
2. 2017年4月～2019年3月 特別研究員DC2採用
3. 2019年3月 博士（理学）の学位取得
4. 2019年4月～2020年3月 ○○会社研究所研究員
5. 2020年4月～2021年3月 ○○大学理学部非常勤講師
6. 2021年4月～2024年3月（予定） ××大学理学部研究員

早期修了した場合の記載例

1. 2017年4月 ○○大学大学院博士課程入学（○○研究科○○専攻）
2. 2019年3月 博士（理学）の学位取得（成績優秀につき早期修了）

今回の申請に関係しない学位を持つ場合の記載例

1. 2012年4月 △△大学大学院博士課程入学（△△研究科△△専攻）
2. 2015年3月 博士（理学）の学位取得（本申請の要件には含まない）
3. 2015年4月～2019年3月 ◇◇会社研究所研究員
4. 2019年4月 ○○大学大学院博士課程入学（○○研究科○○専攻）
5. 2022年3月 博士（理学）の学位取得

忘れずに記入してください！

申請者登録名

(このページには何も記載せず、空白のまま提出してください。)

2. 【研究計画】 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(1) 研究の位置づけ

特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

(1) 研究の位置づけ

1 ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。

【作成方法】

(1) 日本学術振興会 HP から **最新**の様式をダウンロードして作成。

https://www.jsps.go.jp/j_pd/pd_sin.html

(2) 「申請書管理」画面で登録（アップロード）。

推奨手順：https://www.jsps.go.jp/j-pd/data/boshu/naiyo_torikomi.pdf

(3) 登録後、変換された PDF をダウンロードし、内容に不備がないか確認。

【留意事項】

- アップロードする申請内容ファイルは 3MB以内。
- 文字サイズは 10ポイント以上。
- モノクロ印刷で審査されるため、印刷した際に不鮮明とならないか確認してください。
- 評価書作成者は申請内容ファイルの内容を閲覧できません。
- 入力時に画面上で文字化けが確認できない場合でも、PDF上では文字化けが発生することがありますので、PDF変換後は必ず文字化けがないか確認してください。

忘れずに記入してください！

【研究計画】(続き) 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、**全体**で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(2) 研究目的・内容等

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記（※）参照）に応じて、具体的に記入してください。
- ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
- ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。

（※）特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合の応募総額は（A区分）が300万円以下、（B区分）が300万円超450万円以下。2年の場合は（A区分）が200万円以下、（B区分）が200万円超300万円以下。1年の場合は（A区分）が100万円以下、（B区分）が100万円超150万円以下。（B区分については研究計画上必要な場合のみ記入）

(2) 研究目的・内容等

① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容

- ・ 2ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。
- ・ ①～⑤に沿って書くことをお勧めしております。

② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか

忘れずに記入してください！

消さないでください！

(研究目的・内容等の続き)

③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）

Blank area for writing the characteristics and unique points of the research.

※ ④、⑤は該当する場合のみ記入してください。

Blank area for writing additional information.

忘れずに記入してください！

(3) 受入研究室の選定理由 ※各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

採用後の受入研究室を選定した理由について、次の項目を含めて記入してください。

① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況

② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

※ 個人的に行う研究で、指導的研究者を中心とするグループが想定されない分野では、「研究室」を「研究者」と読み替えて記入してください。

(3) 受入研究室の選定理由

① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況

- ・ 1ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。
- ・ ①、②に沿って書くことをお勧めしております。

② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

忘れずに記入してください！

3. 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本欄には、「2. 研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究や安全保障貿易管理を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験、機微技術に関わる研究など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

- ・ 1 ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。
- ・ 該当する場合 : 必要事項が記載されていますか？
該当しない場合 : 「該当しない」と記載されていますか？

忘れずに記入してください！

4. 【研究遂行力の自己分析】 各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(1) 研究に関する自身の強み

- ・ 2ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。
- ・ 論文の羅列（リストアップ）になっていませんか？
単なる羅列ではなく、文章も含めて具体的に記述してください。

忘れずに記入してください！

消さないでください！

(研究遂行力の自己分析の続き)

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

Blank area for writing the response to the question: (2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

忘れずに記入してください！

5.【目指す研究者像等】 ※各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

1 ページ以内で記入。様式の変更・追加は不可。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

忘れずに記入してください！

出身研究機関を受入研究機関に選定する者は、特別研究員等審査会において以下のやむを得ない事由のいずれかに該当すると判定された場合のみ、研究機関移動に関する特例措置を認めます。

- ・身体障がい、出産・育児等の理由により出身研究機関以外の研究機関で研究に従事することが難しい場合
- ・研究目的・内容及び研究計画等から研究に従事する研究機関として出身研究機関以外の研究機関を選定することが国内の研究機関等における研究の現状において、極めて困難な場合

特例措置を希望する者は「特例措置希望理由書」を提出する状況（例：出身研究機関と受入研究機関が同じである等）を明確にしたうえで、研究環境を変更できない事由を研究室の選定理由と関連づけて説明してください。（「10. 申請手続（3）提出書類 申請書（エ）特例措置希望理由書」を参照）

なお、研究上必要と認められる場合には、一定期間、受入研究機関以外の研究機関（外国の研究機関を含む。）においても研究を行うことができるので、特定の研究機器、技術等の有無をもって研究機関の移動ができない理由とすることは、原則認められません。

特例措置希望理由書	出身研究機関と受入研究機関との関係：同一大学
	<p style="color: red; font-weight: bold;">必ず事前にガイドラインを確認してください。</p> <p>『申請書作成要領』 p.30 https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-pd/data/recruiting/sakusei_pd.pdf</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">特例措置が認められた場合であっても、出身研究機関の学籍上の研究指導者を受入研究者に選定することはできません。</p> <p>過去の特例措置希望者の採用状況 申請資格審査状況：https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa.html</p> <p>【作成方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「 大学院在学当時の所属研究機関（出身研究機関）と受入研究機関との関係」 やむを得ない事由があり「同一大学」 を選択 2. システム上にて、受入研究機関を変更できない理由を詳細に記入（入力は 100 字以上 2,000 字以内、改行は 10 回）

忘れずに記入してください。

申請者登録名 _____

(このページには何も記載せず、空白のまま提出してください。)

2. 【研究計画】別添

日本語または英語

研究経費とその必要性

特別研究員奨励費（特別研究員）
（金額単位：千円）

金額は千円単位です。

応募区分

自動表示（「申請書情報」から反映）

研究経費 （千円未満の 端数は切り 捨てる）	年度	研究経費 （千円）	使用内訳（千円）				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	2025年度						
	2026年度						
	2027年度						
	総計						

年度	設備備品費の明細					消耗品費の明細	
	品名・仕様	設置機関	数量	単価	金額	事項	金額
R7	分析装置 社製 型式123	熊本大学	1	1,000	1,000	分析用試薬	100
R8	PC 社製 型式A-12	熊本大学	1	200	200	実験用マウス	100
R9	西洋中世政治史関連書籍	熊本大学	1	100	100		

具体的に記入。
例： 分析装置 社製 型式123
x 実験機器

具体的に記入。
例： 分析用試薬、実験用マウス
x 実験材料一式

【設備備品費】 耐用年数が1年以上で、1個又は1組の取得価額が10万円以上の物品

【消耗品費】 上記以外の物品
例：ソフトウェア
Officeライセンス利用料
雑誌などの図書
定期購読料

設備備品費、消耗品費の必要性

「なぜ必要なのか？」がわかるように、必要性・積算根拠を具体的にわかりやすく入力してください。

また、いずれかの年度で「設備備品費」または「消耗品費」が当該年度の90%を超える場合は、研究遂行上の必要性を入力してください。

申請者登録名：

（１）応募中の研究費

研究者氏名				
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	2025年度の研究経費（期間全体の額）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職）（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額）
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	

見本

(2) 受入予定の研究費

特別研究員奨励費(特別研究員)

資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割	2025年度の研究経費(期間全体の額)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等(左記の研究課題を受入れるに当たっての所属組織・役職)(科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	

見本